

岡山大学構内遺跡調査研究年報 8

1990年度

1991年12月

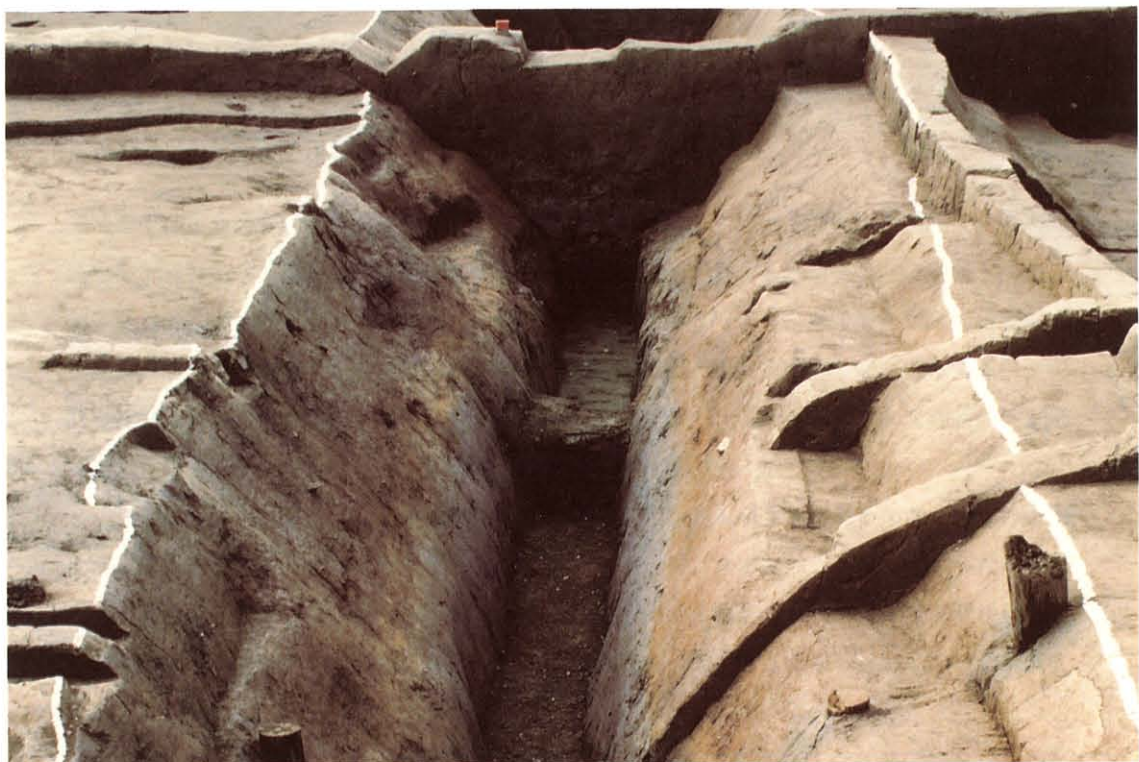
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

岡山大学構内遺跡調査研究年報 8

1990年度

1991年12月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター



卷頭写真1 溝4b



卷頭写真2 溝2b

序

1989年度から1990年度前半にかけては、ちょうど規模の大きい発掘調査が途切れた時期で、発掘成果の展示会や遺物整理作業などにも力を注ぐことができました。

ところで、出土した土器や石器は、法律上、埋蔵文化財と呼ばれています。竪穴住居のような遺構も、土器が散布しているだけの遺跡もやはり、埋蔵文化財です。しかし例えば江戸や明治の絵画といったものは、すべて文化財というわけではなく、ごく一部の優れた作品のみが選ばれ、行政的な指定が行われてはじめて文化財となるわけです。

法律上の扱いはともかく、出土遺物や遺跡が広く文化財とみなされるためには、過去の歴史をたどる上でどれもが個性的な価値をもつということがやはり研究の上で明らかにされる必要があります。発掘調査後に行われる遺構・遺物の整理作業や報告書の刊行は、考古資料に新しい文化財としての価値を付け加えていくという意味でも、大切な意義をもっていると思われま

す。

1990年度後半からは、医学部構内鹿田遺跡でのアイソトープ総合センター建設地をはじめとして、再び大規模な発掘調査が続いていますが、発掘・整理作業の他にも、出土遺物の保存処理や調査成果の普及活動など、文化財保護に必要な事業をさらに多面的に進めていきたいと考えております。日頃から御指導・ご協力をたまわっている関係各機関・各位にお礼申し上げますとともに、今後の一層のご支援をお願いする次第です。

1991年12月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター長

稲 田 孝 司

例 言

- 1 本年報は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが岡山大学構内において1990年4月1日から1991年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査と保存、および活動成果をまとめたものである。
- 2 大学構内の埋蔵文化財の調査に際しては、設定基準を次のように定めた。
 - 1) 津島地区では、国土座標第5座標系 ($X = -144,500$, $Y = -37,000$) を起点とし、真北を基軸とした構内座標を設置した。一辺50mの方形地区割である。また、同地区では調査の便宜上、大きく津島北地区と同南地区に二分する(図20~22)。
 - 2) 鹿田地区では、国土座標第5座標系 ($X = -149,800$, $Y = -37,400$) を起点とし、座標軸をN15°Eに振ったものを基軸とした構内座標を設置した。地区割は一辺5mの方形を用いている。(図23)。
 - 3) 本文中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は真北を、他は磁北を使用している。
- 3 岡山大学構内の遺跡の名称は、周知の遺跡の場合はそのまま踏襲する。津島地区構内については、遺存する小字名を用いるか、岡山大学津島地区遺跡群と仮称してきたが、今後は、全域を「津島岡大遺跡」と総称する。他地区は任意の名称で仮称する。
- 4 調査名称は、「発掘調査」に分類したものについては、各遺跡毎に調査順に従って次数番号で呼称し、「試掘調査など」に分類したものは、任意の名称を用いる。発掘調査のうち、小規模で、試掘調査から連続して調査したものは、試掘調査を経ず調査したものは、「試掘調査など」に分類する。
- 6 「発掘調査」についての記述は現段階における概要であり、精確な詳細は正式報告によって頂きたい。「試掘調査など」については、本年報での記述を正式報告にかえる。
- 4 表に記載した所属部は、原則として各学部の頭文字を略号として用いている。
- 5 本文・目次・挿図・写真などで使用の調査番号は表1と一致する。
- 7 本文は、絹川一徳・土井基司・富樫孝志・松木武彦・山本悦世・若林卓が分担執筆し、執筆者名は末尾に記した。
- 8 編集は稲田孝司センター長の指導のもとに、山本の協力を得て、土井が担当した。
- 9 本年報に掲載の津島地区の地形図は岡山市発行の1/2500の地図を複製したものである。
- 10 調査・整理において以下の方々にご援助・教示を頂いた。記して感謝申し上げる。
亀田修一、川崎保、河瀬正利、北野信彦、久保穰二郎、河本清、粉川昭平、近藤義郎、谷山雅彦、千葉豊、出原恵三、中井信之、中原齊、能城修一、橋口達也、橋本久和、平井勝、松谷暁子、村上幸雄、村田秀石

岡山大学構内遺跡調査研究年報 8 1990年度

目 次

第1章	1990年度岡山大学構内遺跡調査報告	1
1	調査の概要	1
2	発掘調査	1
①	津島5次調査<大学院自然科学研究科棟>共同溝・検水槽	1
②	鹿田6次調査<アイソトープ総合センター予定地>	5
3	試掘調査など	9
③	学生合宿所ポンプ槽予定地	9
④	資源生物科学研究所内遺跡確認調査	11
⑤	アイソトープ総合センター予定地	13
⑥	福利厚生施設予定地	14
4	立会調査	17
(1)	津島地区	17
(2)	鹿田地区	18
第2章	1990年度普及・研究・資料整理活動	25
1	資料整理	25
2	分析依頼	25
3	刊行物	25
4	調査員の活動	26
5	日誌抄	27
6	遺物収蔵量および保管施設	28
7	展示会	30
第3章	1990年度構内遺跡の調査および活動のまとめ	32
附 表		33
岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項		40
1	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規定	40
2	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会規定	41
3	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規定	41

1990年度埋蔵文化財調査研究センター組織	43
1 センター組織一覧	43
2 管理委員会	43
3 運営委員会	44
附 編	45

挿 図 目 次

図 1 大学院自然科学研究科棟 共同溝・検水槽 調査地点図	1	
図 2	土層断面図	3
図 3	溝 1・2 平面図	3
図 4	出土遺物	4
図 5 アイストープ総合センター 土層断面柱状図	5	
図 6	遺構配置図	6
図 7	出土遺物	8
図 8 学生合宿所ポンプ槽予定地 調査地点図	9	
図 9	土層断面図	10
図10 資源生物科学研究所内遺跡確認調査 調査地区位置図	11	
図11	調査地点図	12
図12	土層断面図	12
図13 アイストープ総合センター予定地 調査地点図	13	
図14	調査区平面図	14
図15	東壁土層断面図	14
図16 福利厚生施設予定地 調査地点図	14	
図17	土層断面柱状図	15
図18	遺構検出状況	16
図19 調査⑩土層柱状図	17	

図20 津島地区全体図	21
図21 津島北地区	22
図22 津島南地区	23
図23 鹿田地区全体図	24
図24 展示会場見取図	31

写 真 目 次

卷頭写真1 アイソトープ総合センター 溝4 b	
卷頭写真2	溝2 b 土器出土状況
写真1 大学院自然科学研究科棟 共同溝・検水槽 検水槽東壁	2
写真2 アイソトープ総合センター 溝1 断面	4
写真3	溝2 断面
写真4	溝4 断面
写真5	井戸1
写真6	井戸1 土器出土状況
写真7 福利厚生施設予定地 溝1 検出状況	16

表 目 次

表1 1990年度調査一覧	19
表2 埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物概要	28

附表1	1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度）	33
附表2	1989年度以前の構内主要調査（1983～1989年度）	33
附表2-(1)	発掘調査	33
附表2-(2)	試掘調査など	34
附表2-(3)	立会調査	35
附表3	埋蔵文化財調査室刊行物	39
附表4	埋蔵文化財調査研究センター刊行物	39